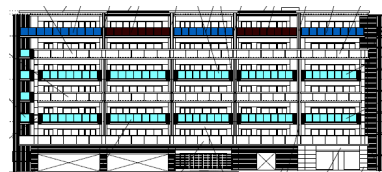


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 茨木市松ヶ本町PJ 新築工事	階数	地上7F地下0F
建設地	大阪府茨木市松ヶ本町	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	74 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年7月30日
敷地面積	1,146 m ²	作成者	株式会社生原建築事務所生原実
建築面積	581 m ²	確認日	2024年8月5日
延床面積	2,868 m ²	確認者	株式会社生原建築事務所生原実



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	敷地内には可能な限り緑地を設けたほか、敷地入口付近に樹木を計画することで、周囲に溶け込む建物となるように配慮した。	その他 特になし。
Q1 室内環境	自然光を十分取り込めるよう計画し、自然エネルギーの活用により環境負荷の低減を図るとともに、快適な室内環境の確保に努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー	外皮性能の向上を図るとともに、LED照明を採用し、エネルギー消費の低減に務めている。	LR3 敷地外環境 広告物照明を設置せず、光害の抑制に配慮した。
Q2 サービス性能	特になし。	
LR2 資源・マテリアル	省資源化に配慮し、躯体以外にはリサイクル材を採用したほか、断熱材にはODPが低いものを使用した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称	(仮称) 茨木市松ヶ本町P J 新築工事						
建設地	大阪府茨木市松ヶ本町						
用途/区分	集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A
①	CO2削減						3
②	みどり・ヒート アイランド対策						3
③	断熱性能						5
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分				5
④	エネルギー消費性能						5
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分				2
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分					評価対象外
⑤	自然エネルギー直接利用						—
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.3	3
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							